2027年度　武蔵野学院大学　国際コミュニケーション学部
総合型選抜第２回の「プレゼンテーション」

試 験 科 目

①プレゼンテーション（60点）

以下のテーマについて、面接者（2名）の前で、約3分間のプレゼンテーションをしてもらいます。
その後、プレゼンテーションの内容に関する質疑応答の時間があります。

テーマ

「アートがもたらす異文化間交流の可能性について」

テーマの主旨

アートには、歴史を遡ってみても音楽、演劇、絵画、彫刻、写真、映像など技術の発展とともに生まれたジャンルに加え、その地域に伝統的に根ざした芸能から、グローバルに展開している現代アートまで、幅広い種類が存在します。日本にも、地域に根ざした芸能や自然を活かした芸術祭（アート・フェスティバル）から、国際的に活躍するアーティストの作品が展示され売買されるアート・フェアまで、アートを介した異文化交流が盛んに行われています。

そのなかには、異文化間交流を生み出すことそのものを目的にアートを制作しているアーティストもいます。自身の生まれ育った地域の文化だけでなく、自分が展示する場所に生きる人々が大切にしている文化、ひいてはその作品を味わいに訪れる人々が大切にしている文化のそれぞれを、アート作品の制作に活かそうと考えている人々がいます。

そこであなたには、グローバル化の進む社会で求められている「異文化間交流」の促進という目的に対して、さまざまな地域に根ざした芸能や、さまざまなジャンルのアートをどんなふうに活用することができるかを考え、アートの新しい活用例についてプレゼンテーションをしてもらいます。

ただし、面接者の前で行うプレゼンテーションですから、あなた自身にしか分からない言葉を用いる、説明が不十分であるなどの場合には、高い評価を得ることはできません。あなたの興味・関心に詳しいとは限らない面接者に対し、理解してもらえるように工夫しましょう。したがって、「アートによる異文化間交流」を象徴する写真や絵、音などのツールを自由に用いてください。また、動画の作成なども歓迎します。創意工夫を凝らして理路整然と順序立てて話すようにしましょう。